

## P-202 不育症・不妊症における AMH と妊娠継続について

○浅井のりこ, 齋藤 依子, 金谷 美加  
医療法人社団いちご会美加レディースクリニック

【目的】 卵巣予備能の指標とされている抗ミュラー管ホルモン (AMH) は, ART において治療法の指標の一つになっている。AMH 低値症例の妊孕能は低いとされているが, 低値症例でも妊娠の報告がなされている。また, AMH と妊娠継続との関連性についても必ずしも明らかではない。そこで不育症・不妊症の AMH と妊娠継続との関連について検討した。【方法】 2010 年 2 月～2011 年 5 月に AMH を測定した 23 歳～47 歳までの不育症 104 名, 不妊症 315 名を対象とし, 不育症, 不妊症の妊娠群, 非妊娠群の平均年齢と AMH について検討した。【結果】 不育症の平均年齢および AMH は, 妊娠群  $34.0 \pm 4.3$  歳,  $4.19 \pm 4.0$  ng/ml 非妊娠群  $37.6 \pm 3.6$  歳,  $2.66 \pm 2.3$  ng/ml であり, 出産群で  $32.7 \pm 4.4$  歳,  $4.77 \pm 4.6$  ng/ml, 流産群で  $37.4 \pm 2.8$  歳,  $2.76 \pm 2.4$  ng/ml となり非妊娠群, 流産群での平均年齢が高く, AMH が低い傾向がみられた。また, 不妊症の平均年齢および AMH は, 妊娠群  $35.0 \pm 4.2$  歳,  $4.74 \pm 3.7$  ng/ml, 非妊娠群  $35.5 \pm 4.6$  歳,  $4.25 \pm 5.1$  ng/ml であり, 出産群で  $35.0 \pm 3.9$  歳,  $4.56 \pm 2.6$  ng/ml, 流産群で  $35.8 \pm 5.6$  歳,  $2.88 \pm 1.9$  ng/ml となり流産群で AMH が低くなる傾向がみられた。【考察】 不育症の非妊娠群, 流産群で AMH が低くなったのは年齢が高いことが原因と考えられる。不妊症では, 平均年齢にほとんど差がみられず, 流産群で AMH が低い傾向がみられたため, さらなる検討が必要であると考えられる。

## P-203 40 歳以上の症例において AMH が低値であっても卵巣刺激は有効である

○佃 笑美, 佐藤 学, 赤松 芳恵, 橋本 周, 前沢 忠志, 姫野 隆雄, 大西 洋子, 伊藤啓二郎, 中岡 義晴,  
井上 朋子, 森本 義晴  
医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】 40 歳以上の不妊患者の治療方針決定における AMH 値との関連を検討した。【方法】 2010-11 年実施の 40 歳以上の刺激周期 (SC) : 274, 自然又は低刺激周期 (NC) : 1082 の計 1356 周期を対象とした。AMH 10 pmol/L 未満と 10 pmol/L 以上にわけ, 年齢と刺激方法別に成績を比較した。【結果】 AMH 10 未満の SC と NC とで採卵数と受精卵数を比較すると 40-41 歳 (7.6 vs. 1.9, 4.6 vs. 1.2) と 42-44 歳 (5.8 vs. 1.7, 3.2 vs. 1.1) 共に SC で有意に多かった ( $p < 0.001$ )。一方, 妊娠率は SC と NC 間で, 40-41 歳, 42-44 歳, どちらの年齢区でも差はなかった。また, 45 歳以上では各項目で差はなかった。SC の採卵あたりの移植回数 (1.1) は NC (0.4) に比べ有意に多かった ( $p < 0.001$ )。AMH10 以上の SC と NC とで採卵数と受精卵数を比較すると 40-41 歳 (11.2 vs. 2.7, 6.4 vs. 1.4), 42-44 歳 (11.1 vs. 2.5, 5.9 vs. 1.5) および 45 歳以上 (12.4 vs. 1.9, 6.4 vs. 1.0) で SC が有意に多かった ( $p < 0.001$ )。一方, 妊娠率は SC と NC 間で, 40-41 歳, 42-44 歳および 45 歳以上の全ての年齢区で差はなかった。SC の採卵あたりの移植回数 (1.4) は NC (0.5) に比べ有意に多かった ( $p < 0.001$ )。【考察】 通常, 40 歳以上で AMH が低値の場合, NC を選択する事が一般的であるが, 本実験の結果より, SC を選択した場合, NC に比べ治療に用いる胚数が増加し, その結果, 移植回数が増えた。一方, 妊娠率には差がないことから, 10 pmol/L 未満の場合でも SC は NC より効率的であることが示唆された。

## P-204 AMH 値と生活習慣, 患者背景との関連—喫煙, アルコール, カフェイン摂取は卵巣予備能を減少させるか?—

○楠田 朋代, 岡野真一郎, 川上佐智子, 石田 智子, 住田 美佳, 福永 恵美, 絹谷 正之  
絹谷産婦人科

【目的】 Anti-Mullerian hormone (AMH) は卵巣予備能評価の指標とされているが, その数値に個体差が大きいことも知られる。AMH 低値と関連する因子を知ることは予防医学の観点からも重要と考え, 今回 AMH 値と患者背景の関連について検討した。【方法】 平成 23 年 10 月から 24 年 4 月までに挙児希望で当院を受診し AMH を測定した 393 例を対象とした。年齢, 既往歴及び生活習慣 (喫煙歴, 飲酒頻度, コーヒー摂取量など) に対する問診表を作成し AMH 値との関連を調べた。【結果】 PCOS の診断基準を満たす 54 例の AMH 値は  $10.7 \pm 0.88$  ng/ml と PCOS でない例の  $3.15 \pm 0.15$  に対し, 有意に高値であった ( $p < 0.0001$ )。PCOS を除外した 339 例において年齢別の AMH 平均値は, 30 歳以下  $4.69 \pm 0.46$ , 31-35 歳  $3.45 \pm 0.26$ , 36-40 歳  $2.75 \pm 0.21$ , 41 歳以上  $1.01 \pm 0.22$  ng/ml だった ( $p < 0.001$ )。既往歴のうち, 反復流産例の平均値は  $1.27 \pm 0.46$  ng/ml, 自己免疫疾患例の平均値は  $2.35 \pm 0.51$  ng/ml と有意差はないものの既往歴のない例の  $3.24 \pm 0.17$  ng/ml に対し低値であった。喫煙歴ありの 91 例の平均値は  $2.66 \pm 0.23$  ng/ml で喫煙歴なしの  $3.34 \pm 1.96$  ng/ml より低い傾向にあった。飲酒頻度が毎日である 22 例の平均値は  $2.48 \pm 0.38$  ng/ml と飲酒なしの  $3.27 \pm 0.27$  ng/ml や機会飲酒のみの  $3.14 \pm 0.21$  ng/ml に対し低値の傾向を示した。コーヒー摂取量に関しては, 4-6 杯の 15 例で  $2.415 \pm 0.53$  ng/ml と 0-3 杯の  $3.19 \pm 0.16$  ng/ml に対し低値であった。今回 35 歳以下の 182 例中, AMH が 2 ng/ml 未満の例が 52 例存在し, 2 ng/ml 未満の群では喫煙歴ありの割合が 32.7% と 2 ng/ml 以上の群の 23.0% と比較し高い傾向にあった。【結論】 今回の検討では PCOS の有無, 年齢以外には有意差を認める因子はなかったが喫煙, 飲酒, カフェインともに多く摂取している群で AMH が低い傾向を認めた。高齢でなく生活習慣などのリスクもないと思われる低値例も多く存在し, そのような症例を早期発見するための AMH 普及が重要と思われた。